

令和５年度 第１回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日 時】 令和５年７月３日（月） １３時００分～１６時００分
- 【場 所】 飛騨市役所 西庁舎３階 大会議室
- 【出席委員】 １８名中１６名
- 【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 渡邊会計管理者 谷尻総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 堀田消防長 佐藤病院事務局長 野村教育委員会事務局長
岡田議会事務局長 大庭河合振興事務所長 平田宮川振興事務所長
三井神岡振興事務所長 上畑財政課長
(１８名)
- 【事 務 局】 森田企画部長 田中総合政策課長 下通課長補佐 土田課長補佐 井口主査
田ノ下主事（６名）
- 【傍 聴 者】 ４名
- 【会 次 第】 １．開会
２．市長挨拶
３．委嘱状交付
４．委員紹介
５．会長・会長職務代理者の選出
６．会長挨拶
７．協議事項
 ①主要施策の成果について …… 資料①
 ②原油価格・物価高騰緊急対策、主要事業の概要について …… 資料②
 ③令和６年度当初予算政策方針について …… 資料③
 ③自由討議
８．その他
 今後のスケジュール …… 資料④
９．閉会

【議事内容】

１．開会【森田企画部長】

令和５年度第１回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は２名のご都合により欠席であるが、委員１８名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第６条の規定により定足数に達していることを報告する。

2. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第1回となる総合政策審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。委員の改選があり新任の方も継続の方もみえるが、よろしくお願い申し上げます。

この総合政策審議会は18名の委員で構成しており、市の審議会の中でも最高位の位置づけである。皆様にはそれぞれの分野の代表として、また、身近な生活者としての視点からも、市政に対する様々なご提言をいただく。この審議会で頂戴した意見は事細かく記録し、予算編成の折には漏れがないように取り組んでおり、政策に直結する可能性が高いため、皆様から様々な意見を頂戴したい。

総合政策審議会は年に4回決まった時期に開催することとしている。今回の第1回は、委員各位から意見・指摘を頂戴し、頂戴した意見をもとに各部・各課が実際の現場の話を聞きつつ来年度どう動くべきかを検討するきっかけとなる大変重要な機会となっている。第2回は、どのような事業を来年度実施するか協議を行う政策協議の開始時期である10月に開催する。第3回は、政策協議を経て概ね来年度予算の骨格が出来上がる12月に開催し、そこで来年度予算で足りない部分がないかのご確認をしていただくことになる。第4回は、3月末に開催し、審議会で各委員から頂戴した意見が最終的にどのような形となったかご報告する機会となる。このように、4回の開催でそれぞれ意味づけをしているため、委員各位につきましては自由な意見を述べていただくようお願い申し上げます。

来年度予算については、令和6年2月1日に市長選挙および市議会議員選挙が行われ、来年度からは新体制での市政運営となることから、今年度中に予算の詳細まで決め切ることができないという特殊な事情がある。その中で、来年度予算編成を組むにあたり、2つの政策の柱をたてておく。1つは、飛騨市の今後5年間の政策の方向性を定める「飛騨市総合政策指針」が、来年度最終年にあたることを受け、飛騨市総合政策指針の中で未達の項目や手をつけられていない項目をチェックし、それらを来年度中にすべて達成できるよう拾い上げること。もう1つは、これからの行政では不変のテーマとなる持続可能性について、今年度編成予算のテーマ「持続可能な飛騨市」を来年度以降も継続および追及をしていくこと。この2つの柱をもって予算編成作業を進めることとしたい。

飛騨市は、こうした審議회를総合政策策定以外でも実施し、なおかつ年4回それぞれ委員の皆様から徹底してご意見を聞いている全国でも数少ない自治体と聞いている。今後もこういった皆様のご意見を丁寧に聞いて政策を実現する姿勢は変えず取り組んでいきたいと考えており、様々なご苦勞をおかけするが、今後とも委員の皆様のご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

3. 委嘱状交付【森田企画部長】

今回は全委員の任期終了後初の審議会となるため、本来であれば市長から委員1人1人に交付させていただくことが本意ではあるが、時間の都合上机上配布をもって交付とさせていただきます。

4. 委員紹介【森田企画部長】

時間の都合上、資料に添付した名簿により委員紹介とさせていただきます。

5. 会長・会長職務代理者の選出【森田企画部長】

会長・会長職務代理者は、飛騨市総合政策審議会設置条例第5条の規定により委員の互選により決定

することとなっているが、いかがか。

（「事務局に一任」の発言あり）

事務局に一任のご発言をいただいた。事務局から提案させていただきたいと思うが、ご異議ないか。

（「異議なし」の発言あり）

それでは、会長にはP委員、会長職務代理者にはO委員にお願いしたいが、ご異議ないか。

（「異議なし」の発言あり）

異議なしのご発言をいただいた。P委員、O委員、ご面倒をおかけすると思うがよろしくをお願いしたい。

6. 会長挨拶【会長】

先ほど市長からあったように、この総合政策審議会という取組は全国的にも非常に珍しい取り組みである。委員の皆様は各分野でプレイヤーとして活躍している中で気づいた点や課題を直接市に持ち込める貴重な機会であるため、職位によらず、一市民として普段感じている、あるいは困っていることもここで自由にお話いただきたい。ぜひ忌憚のない意見をいただきたくご協力をよろしくお願い申し上げます。

7. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①主要施策の成果について、事務局の説明を求める。

【下通補佐】 協議事項①について説明。（資料①）

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 協議事項②原油価格・物価高騰対策、主要事業の概要について、事務局の説明を求める。

【下通補佐】 協議事項②について説明。（資料②）

【会長】 協議事項②について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 協議事項③令和6年度当初予算政策方針について、事務局の説明を求める。

【都竹市長】 協議事項③について説明。（資料③）

【会長】 協議事項③について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 それぞれの大学でAIについて議論が出てきているが、岐阜大学としては基本的に生成系AIを活用できる人材にしていこうという学長の方針がある。私自身、世の中がそういったAIを上手に使っていくことが世の流れになると思う。

【都竹市長】 前回の市議会一般質問の際、議員からの発言通告を ChatGPT に入力したらどのような答えを返してくるかが気になり、入力してみると 10 秒でとても素晴らしい答弁が出力された。その答弁を一般質問で読み上げた後、実は今の答弁は ChatGPT が返してきたものだと申し添えたが、何人かはあの答弁が本当に市長の答弁だと思ったとのこと。ChatGPT はもう既に高いレベルのものを返してくるため、我々としては ChatGPT レベルを超えることが求められていることになる。市役所での ChatGPT の活用方法を考えると、飛騨市ではあまりやらないが職員が市長の挨拶文を考えることがあり、それに活用できるかと思う。ChatGPT が返してきたものを添削するだけで良いため、はるかに時間短縮ができるようになる。今後、職員は ChatGPT が返してきた文章よりもレベルの高い文章にするための添削をしなくてはならないことから、ChatGPT によって全体の職員のレベルは上がると想定される。他には、一般的な総合計画の草案を ChatGPT が作成する活用方法もある。ただ、恐らく他の自治体でも同じような活用方法を検討することが想定され、出力された草案をそのまま使ってしまうと他市と変わらない計画になってしまう可能性がある。そのため、各市は ChatGPT が作成した草案を、それぞれの市流にアレンジして独自の計画にする必要があり、うまく使いこなせば地方自治行政のレベルが上がってくると認識している。そういったこともあり、生成系 AI を使いこなせる職員を育成するため、まずは生成系 AI を使い倒してみ、生成系 AI を超えるものを目指していくということが飛騨市の方向性である。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題、市に足りていない部分など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場や一個人のご意見を一人ずつ頂戴したい。

【A 委員】 今年の 2 月、3 月に補助をしていただいたが、タクシーの補助は古川から神岡に行くなど距離が離れていないと使えなかったため、なかなか活用できなかった。もし可能であれば、タクシーに特化した補助制度でも構わないので使いやすいものを作っていただきたい。

【B 委員】 古川西小学校および飛騨古川駅のトイレが老朽化しているため修繕いただきたい。欧米のインバウンド観光客が非常に増えてきている。海外の方は信仰する宗教や嗜好により、食べ物について制限がかかっている場合が多いが、市内の宿泊施設や飲食業者の理解が不足していると思われる。この解決のため、市から市内宿泊施設や飲食業者に対して研修会を行っていただきたい。

例えば移住施策のように様々な事業に対して予算をつけているが、民間企業であれば事業ごとに費用対効果を算出する場合が多く、費用対効果の表記があれば資料も

より分かりやすくなるのでは。

【C 委員】

土地改良事業をしていた圃場の形ができてきて、本格的に営農できるようになった。圃場の規模が大きくなり、国の補助を受けることが出来た。白川村では、吉野さんという方が吉野 GP という豚を買っており、そこで生産された堆肥のみを使って水稻と大豆を栽培する試験を始めた。また、新しい取り組みとして小麦を栽培しており、高山のなるセパン・トランブルーと取引をさせていただく予定となっている。新しいことをはじめると、どうしても資金が必要になるが、肥料農薬・農業機械がすべて高くなっている。土地利用型的水稻を中心とした農家は段々減ってきており、耕作できなくなった農地は一部の営農組合や地域の農業法人に預ける場合が多く、農地を預けてもらって営農規模が大きくなると、より多くの肥料農薬や、より効率よく営農するための農業機械も必要となり、昨今の物価高騰の影響をまともに受けることになる。前回この場に出席した際は、補助金につながるような話はしないようにしていたが、そうも言っていられない状況になったため、一度このことに関して市長に話を聞いていただきたいと思っている。水稻は農業機械や肥料農薬に頼る比率が高く、物価高騰でかなり負担が大きくなっており、この状況では後継者を育てようにも育てようがなくなっているところが本音であり、営農組合の長を何人か連れていくので、ぜひ一度話し合う機会を作って頂けるとありがたい。

【D 委員】

自分が現役教師の時は LGBT に関する子どもたちや悩みを聞いたことがなかったが、今はジェンダーレス・ジェンダーフリーの動きがかなり進んでおり、特に校則や服装などは特に進んでいるように感じる。その中でなかなか変わらないと思ったことが、中学校・高校の「出席簿」の順番。小学校では男女混合になっており、東京都の方でも男女混合の動きが進んでいるようなので検討していただきたい。また、市長の LGBTQ に対する意見や市の取組について教えていただきたい。

【E 委員】

先日、岐阜県の PTA 総会に参加した際、一つ問題として挙がっていたことが、子どもたちのランドセルや通学カバンが重すぎるということだった。自分の娘も道路の段差に躓いて転んでしまったようで、よく話を聞いてみると躓いた時にランドセルが重すぎてバランスが取れずに転ばざるを得なかったということだった。また、子どもの体に荷重がかかることで姿勢が悪くなるなど悪影響が考えられる。県内の学校ではタブレットに教科書のデータを入れて使っているところもあると聞き、可能であれば同じようになしてほしい。飛騨市としてはこの問題についてどう考え、対策をしているかお聞かせいただきたい。

また、中学校の部活動の地域クラブ化について、まだ移行期ということで具体的な方針が具体的に決まっていない状態であると承知しているが、対象になる子を持つ親御さんとしては大きな不安であることが予想されるため、決まり次第ぜひ丁寧な説明をお願いしたい。

【F 委員】 持続可能な飛騨市づくりということで、事業者の人材確保や人口減少対策として移住者の確保を政策として実施している中で、やはり、全国的にどこでも人材不足が叫ばれており、就職しても数年で辞めていく人材の流動化が顕著であり、人材の確保ということは大きな課題となっている。そういった背景もあり、市内にいる人材が上手く活用できる方法をアピールすると、将来的には移住者促進につながるように思える。例えば、子育て世代の方で働きたいが夏休みの間は子どもがずっと家にいるので働けないという悩みをお持ちの方がいるとすれば、どこかで1～2時間のアルバイトができるよう情報提供・人材派遣のような登録制の何かがあれば、働きたい人は収入の確保および外部とのつながりもでき、雇う側は急な人材の不足を補完できる。このような win-win の関係になるような政策があれば、将来的な移住促進の外に向けたアピールにつながるのでは。

【G 委員】 企業の人手不足対策として、市では企業も人材確保の努力が必要ということで、企業がアピールできるような機会の創出や、ホームページ更新の在り方など様々なセミナーをやっていると聞いた。ただ、それでも人手不足は続いており、次の手が求められるところだと思うが、ヒダスケなど関係人口を取っ掛かりとした取組をしてはどうだろうか。例えば、広葉樹の取組など、新しい産業を立ち上げている事業者があれば、ヒダスケや飛騨市ファンクラブと連携して人を呼べないだろうか。事業者が来てくださいと言っても限界があるため、効果はすぐ出ないかもしれないがそういった方法も考えられると思う。人手不足に伴い、今後は AI や IT、DXなどを企業が積極的に取り入れられるような施策・支援が必要になると思う。

昨今は災害が多く、学校でも引き渡し訓練を実施していただいている。日頃からこういった訓練をすることは非常に良いことだと思っているが、例えば、地震が発生して学校までの経路が遮断され迎えに行けなくなった場合など、誰も子どもを迎えに行けない状況になった際の対応については今まで話を聞いたことが無い。万が一、災害でもう帰れない場合の対応等について教えていただきたい。

【H 委員】 持続可能な飛騨市づくりということで、我々が自らの事業を継続していく上で一番心配していることは後継者や次世代の問題。飛騨市は、山之村のマルシェや神岡中での企業クエスト、吉城高校での YCK など、地域連携に関することを多くやっていて本当に素晴らしいと思う。ただ、卒業後の高校生は7～8割が市外に出ており、そのまま戻ってこないということがほとんどで、これが一番の課題だと感じている。以前、神岡出身の大学生と zoom で語る企画を実施したところ、いつかは飛騨に戻りたいと思っている大学生が多くいることが分かり、非常に心強く感じた。現在実施している小中高と地域の連携事業を、高校卒業後も続けていただきたい。例えば、お盆や正月といった帰省時に、地域へ興味を持ってもらえるような19歳～20代を中心とした何らかの取組を市役所の若い方中心に企画してもらえれば、将来的な人材不足の解決にもつながるのでは。

また、新型コロナウイルス感染症も明け通常の生活に戻ってきても、やはり以前ほど飲食店にお客さんが戻ってきていない状況なので、地元の飲食店支援をもう一度実施していただきたい。

【I 委員】 コロナ禍が終わり、防災士会としてようやく動ける状態になった。避難所運営協力防災士制度を設けていただき、最初は人が集まるか半信半疑であったが、防災士約200人中83名も集まった。第1回目の講習会も非常に盛り上がりを見せ、特に女性の方の行動力が高く驚いた。6月4日に開催された市との総合訓練でも市職員と防災士が協力し合って避難所の立ち上げ・運営をし盛り上がった。また、それぞれの地区の防災士を中心に防災講習が多数開講され、地域の皆さんの意識も変わってきていることがわかった。今後は学校での防災教育や、幅広い年齢層の方を集めて危険箇所や河川の水位カメラの位置を把握する防災タウンミーティングも計画しており、特に神岡で実施するタウンミーティングは神岡中学校の生徒たちが率先して計画してくれているということで非常にありがたいと思う。防災士として避難所開設等防災に係る要請に応えるべく研修・研鑽を積んでいくので、企業でも学校でも地域でも何かあればお気軽にお声がけいただければと思う。

【J 委員】 最近では、杉崎公園の整備をしていただき、休みの日になると子どもたちは公園へ行きたいということも増えた。また、入園入学準備金の支援が服関係も対象となり使いやすくなって大変ありがたいと思う。今回は特に要望を持ち合わせていないが、市政に直接意見を言える貴重な場なので、次回参加の際は保護者の方から意見を集めてこの場で投げかけたいと思う。

【K 委員】 介護サービス業をしている中で困ったことが何点かある。1つ目は、山之村のデイサービスのことで、入所者定員10名のうち最大となる10名にご利用いただいている中、職員はそれに対し3人であり、なおかつ来年度もしかすると職員が1人欠ける可能性があることからサービスの継続ができなくなる可能性が高いということ。山之村に住んでいる方に話を聞いてみたりはしているが、飛騨市でも興味がありそうな方にぜひ声をかけていただきたい。2つ目は、山之村のデイサービスは基準緩和であり、経済的に厳しく公用車が無いため、送迎には職員の自家用車を使っている状況である。そんな中、先ほど市から地域の公共交通機関の利用について話があり、送迎に活用出来ないかと考えていたため、調整が上手くいけばぜひ活用させていただきたい。3つ目は、山之村の診療所のお風呂のことで、診療所の建て替えに伴い、住民宛てにアンケートを取りお風呂を設置するか決めていくところ。ただ、お風呂を作ったとしても結局マンパワーがないので合理的ではないように思える。現在、水曜日のみ割石温泉へ入浴しに行っているが、車の都合さえつければもっと高頻度で行けるのではないかと検討している。

基準緩和のヘルパーである飛騨市支えあいヘルパーについて、神岡では絶対数が少

ないことから、依頼があっても人がいないという理由でお断りすることがあるが、そうすると結局のところ介護のヘルパーへ依頼が行き負担が増えてしまう。対策として、数の多い古川の支えあいヘルパーへ神岡に来てもらうことも考えたが、交通費が倍になるということもあり現状は何ともならない状況。

デイサービスについて、基準緩和のデイサービスということで介護予防に特化しているが、現状は介護維持の利用者が多くなっている。介護維持の利用者が変更申請や更新をすると、結局介護の方に移ってしまい新規のデイサービスが伸びてこない状況があるので、そこは市職員やケアマネージャーの方と相談したい。雇用している職員は現在 61 名いて平均年齢が 66 歳と高く、介護に従事する職員自身が介護予防をしている現状である。また、飛騨市では介護人材を雇用する際に活用できる補助金があるが、我々の所で雇用している職員は対象にならないことが多く、そこを使えるようにしていただければ、こちらとしても職員をより多く雇用できると思う。

【L 委員】

皆さんは新型コロナが終わりだと認識されているようだが、それはとんでもない話である。4月に感染者が爆発的に増えたのは、古川まつりの影響だと私は認識している。5月8日から、政府が新型コロナを5類に変更したことにより、感染者数の届出は必要なくなり感染者数の把握もできない状態。今は、各県内定点観測で感染者数を出しているところだが、それもまだ感染者数はゼロになっていない。私たち高齢者を扱う医療者は、感染対策を未だにしており、3年間気の抜けない毎日で精神的にもなかなか厳しい状況が続いているという点にはご理解いただきたい。現在の主流は XBB と呼ばれるもので、感染性が強く症状が出る 2 日前くらいから感染性があり、同一家族で生活している人はほぼ感染する。症状は比較的軽いものの、感染したくない方や感染をさせたくない方は、今までと同じように感染対策をしていただいた方がよいと思う。

先ほど、今年度も物価・原油価格高騰緊急対策を継続していただけるということを開き有難く思う。法人・企業として存続するために、職員への給与支払いは必須なので非常に助かる。

市税の推移をみると、令和2年度から4年度まではほぼ横ばいの形となっている。これは世間のコロナによる経済の落ち込みと比較すると、飛騨市はあまり影響がなかったという認識でよろしいか。また、固定資産税は前年度比約1億円増加しており、税収を見ると、飛騨市はコロナに関してあまり不満や影響がなかったように見えるので、そのあたりの分析を聞かせてほしい。

令和6年度以降の市役所づくりということで、方針を先ほど市長が言われたように、AIを使った計画や立案はこれでよいと思うが、実際に人間が担う業務量の負担は大きいように見えるため、改善できる部分は改善いただきたい。

藤井聡太棋士の対局について、対局場所の公募があるようで、飛騨市の宣伝という面でも企画してみてはいかがか。

また、来年2月は市長選挙ということで、都竹市長は表明されるのか。

【M委員】

先月28日、神岡中学校でミズベリング開催に向けた会議が行われた。その中で、中学生が3班に分かれてそれぞれ考えた意見を聞いたが、大人だけで協議するときには中々思いつかないようなアイデアが出てきて、若い人の発想はとても良いと感じた。ボランティアとしてミズベリングに関わってくれる中学生は非常に頼もしく、また、こういった取り組みは地域に対する郷土愛を育む意味合いからも非常に良い取り組みだと思うので、今後もぜひ様々な面で進めていただきたい。

自分は商売をしているが、神岡は特に人口減少先進地であり、なおかつ消費者行動が変容し近隣の大型店へ買い物に行く方が増えているため、休日でも客数がかなり落ち込んでいる。可能であれば、再度プレミアム商品券の発行を企画し、地域の商業の活性化に一役買うような後押しをしていただきたい。

【N委員】

宮川町は人口の割に区が非常に多く非効率的な面もあったが、2年前に合併し、最近は更に再編の動きがあり、令和6年度からはもう少し集約された形になると思われる。

市の区長会等連携協議会の在り方について、これまでは全町の区長会を横断する組織としての意義があったが、飛騨市合併20周年を迎えるにあたり、今後、区長会等連絡協議会をどうしていくのかと区長から意見があった。今後の方向性についてご意見があればお聞かせいただきたい。

市は、地区の要望にも毎年真剣に取り組んでいただいております、通行の安全性を図るため側溝蓋を設置いただくなど、地区として大変有難く思っている。感謝を申し上げます。

困りごととしては、大無雁にある小畑産業さんが昔使っていた工場のことで、工場が今はもう廃墟のようになっている。これから工場を取り壊していただくよう小畑産業さんと話を進めていくところだが、区と民間の事業者がよりよい方向で話を進めていくためにはどうすればよいか助言があればお聞かせいただきたい。

【O委員】

市の情報発信手段としてLINEがあるが、飛騨市のLINEの友達登録者数はどの程度か。LINEでの情報発信は、自分の都合のよい時に興味のある内容だけを見られる大変便利なものなので、できる限り多くの市民に友達登録をしていただくよう積極的に普及した方が良いと思う。加えて、飛騨市LINEの友達登録は中高生でも可能なのかお聞きしたい。市民と行政と関わるのは、地域の行事や回覧板、同報無線程度だが、どの手段でも大体の場合は世帯主が連絡を受けるので、若い人たちにとっては行政との馴染がなくなってしまう。今でも40代50代の方に町内の役などを依頼する際、「何をするか全く分からないから」という理由で断られる場合が多く、このようなことを今後少なくするためにも、若い人が地域や行政との馴染がないまま過ごすことがないように中高生の若い時期から行政と何かしらの繋がりを持つておくことが重要だと考える。遅効性だが地域活性のベースの引き上げにつながってくると思

われるため、もし不都合がなければ中高生へのガイダンスを実施していただきたい。

【会長】

市長からご意見を伺う。

【都竹市長】

まず、A委員からタクシーの話があった。確かに、タクシーの補助があれば呼び水となり飲食店がにぎわうことは想定できる。しかし、市内飲食店についてはコロナ禍と比較すると曲がりなりに客足が戻りつつあるその一方で、価格転嫁や企業努力が難しく、なおかつ支援の手が伸びてきていない医療・介護・福祉分野の事業者がいる。後者への支援を考えると、現状はタクシーを含めた飲食店支援の優先順位は少し下がってしまうことをご理解いただきたい。

B委員のお話で、古川西小学校のトイレについてはこちらとして認識が無かったため、実際にトイレを見させていただき、周囲の人はこういった要望があるのか、もしくは要望がないのかを調べたいと思う。飛騨古川駅のトイレについては、以前からJR 東海へ打診しているものの、あまり積極的な状況ではないため、市から何かしら支援する必要があるように思う。飛騨古川駅の在り方を考えながら、JR 東海と協議していきたい。

最近外国人のお客様が明らかに増えてきており、飛騨古川の町を目指してみえる方も多くなっている。飲食店や宿泊事業者に研修等説明を行えるよう早速手を打っていききたい。

費用対効果について、元来採算がとれない部分を行政が実施するというのが原則であるため、費用対効果を殊更に求めることが正しいかという部分はあるものの、費用対効果自体は非常に重要であり、政策の効果を見極める上で大いに参考になるものと認識している。今後も中身を持ちながら、適切な費用対効果の在り方や検証方法を考えていきたい。

C委員のお話で、営農規模が大きくなればなるほど事業へのご負担が大きいということは昨年度伺って存じており、そういったご意見を踏まえて今年度新たに大型農業機械への補助事業を持ち込んだところである。農機具の価格は更に上がっていて、ここについて市としてどのような支援ができるかは引き続き検討させていただく。今後は、補助事業を受けつつ融資を受けるような組み合わせになっていくと思われるが、農業の場合はJAから融資を受ける方が多く、金融の世界から農業は切り離されているように感じ、個人的に大きな問題意識を持っている。農業肥料・農機具の高騰というのは、全体の効果に及ぼす非常に大きな問題だと思っており、ここについては来年度の1つのポイントになるので、どのようなことが不足しているかを皆さんから聞かせていただきたい。

D委員から出席簿の話があったが、私自身も出席簿すべて男女混合でよいのではと思っている。ただ、ここは実際の学校現場とよく相談していききたいと思う。

市のLGBTQの取組について、平成29年にパートナーシップ証明制度の提案をしたと

ころ、その際は市議会から「まだ市民の理解が十分ではない」とご指摘があり実施しなかった。これを受け、まずは市民の理解増進を主眼に、社会全体の流れの変化を鑑みながら動いていた中、先般の県議会で岐阜県がパートナーシップ証明制度を実施するという動きが出てきた状況である。おそらく県が市へ要請して事業の推進をすると思われるため、県と一緒に出来る部分は市でも協力していきたい。

また、他方で LGBTQ だけの問題ではなく、例えば障がい者や外国人の他、さまざまな課題を抱えた人を尊重する流れを市が作っていく必要があり、その取り組みとして今年度からダイバーシティのまちづくりの研修会や講演会の実施を進めている。

E 委員のお話で、ランドセルや通学カバンが重すぎる件については、そういった話をたまに伺うことがあるので確かに仰る通りであると思う。最近設置された国の子ども家庭庁では、子どもたちに聞くという方針を打ち出しており、市でも実際に子どもたちに聞いてみて、どの程度の影響があつて、子どもたちはどのように思っているかなど、広い新しい時代の学校の在り方を考えていきたいと思う。

地域部活動について、これはご存知のとおり国全体で進めていく方針であり、簡単に言うと部活動がなくなり、地域での運営という形に変わるということ。一番の問題は指導者の確保と運営体制。学校の先生という形での関わりから、地域での一人としての関わり方になるため、やはりイメージがまだしづらいと思う。説明会を頻繁に実施したり、国は今どういう議論をしているか把握したり、先行している地域はどのようにやっているかなど、説明会の在り方を考えて早速丁寧を考えていきたい。

F 委員のお話で、あらゆる部分で人材不足となっているため、具体的に何か考えがあるわけではないが短時間でスポット的に働くという働き方を、何か制度的に考えていく必要があると思う。全国的にもこのような取り組みがいくつかあるということとは存じている。総務省が特定地域づくり事業で、夏なら仕事があるけど冬は仕事がないという人を組み合わせるような仕組みを考えて、組合を作って国費を入れるという事業を実施しており、飛騨市も活用を考えたが、どうしても仕組み的に合わなかったという経緯がある。制度の改革・変革を国へ要望していくということや、市でできることをやってみて国へ要望してみる方法も考えられるが、まだ具体的に何ができるかの考えはない。マッチングの仕組み自体はヒダスケで出来ているため、お仕事ヒダスケ的にできることを早速検討したい。

G 委員のお話で、仰る通り AI や DX を取り入れる企業が増えてきており、市でも様々な研修会やセミナーを開催している。自分の会社で AI や DX を活用したらどうなるか考えていただくセミナーが良いと思い、十六総研さんと一緒に取り組ませていただいている。

災害時の引き渡しの話があつたが、特に地震の場合はその通りで学校に何日か泊ま

り込む可能性もあるため、ここは一度学校の引き渡し訓練の在り方を検証させていただきたい。東日本大震災の時にも、学校で何日か過ごしたところも随分あったと聞いており、長く留まる必要がある場合を想定した学校での訓練や地域の支援の在り方について、両方の目で考えていく。

H委員のお話で、仰る通り地域学校協働活動や飛騨市学園構想を各学校ものすごくたくさん色々やっていた。先週金曜日に山之村へ行って山っこ販売会の様子を見たが、子どもたちがものすごく地域のことを考えていて大変驚いた。地域に関心を持ってくれた後、どのように続けていくかということは非常に大きな課題だと認識している。

高校でも新学習指導要領で環境学習が進んでおり、これは飛騨市内だけでなく高山市内の学校でも取り組まれているため、飛騨市というよりは飛騨地域の考え方でふるさと意識をつくる流れになるのではと思う。ただ、やはり高校を卒業した後に市との関係が切れてしまうことはよくある話で、二十歳の集いなどでPRをしているが、飛騨市ファンクラブなども一つのツールとして、何かしら良い形で飛騨市と繋がりを持ってもらう方法を再度考える必要があると思う。

飲食店支援の話があったが、A委員からのご質問の際に申し上げたように、コロナの時のように全く経済が動いていない、あるいは強制的に営業を止められている状況ではないため、全体的な優先度の考え方からすると、医療福祉・介護・農畜産業等全く他に頼れない業種も存在することを考えればまだ違う努力の仕方も検討できることから、どうしても支援の優先度が下がることはご理解いただきたい。

I委員のお話で、非常に多くの防災士の方が避難所運営に参加いただけたことに関して、皆さんとても意欲的でこんなにありがたいことはないと思う。引き続きご活躍いただけるよう、我々としても全力で支援をさせていただきたい。防災講習についても、区長会と連携してどんどん呼んでくださいというお願いをしていく方法も考えられるので、またご相談したいと思う。

中学生防災士も非常に意欲が高く、中学生が防災士になってくれたことで小学生にも波及している。こういった流れを更に強化するため、引き続き協力をお願いしたい。

J委員のお話で、保育園児の保護者向けにアンケートをとっていただき、こういった場でご意見を出していただけると非常にありがたいのでぜひよろしくお願い申し上げる。

杉崎公園について、おかげさまで大変評判がよく、先般開催された高山市の市議会にて、古川の杉崎公園を見習えという質問が出たこともあって、先日高山市長さんをはじめとして視察にみえたという点でも自信に思っている。

先日、古川西小学校の訪問に行った際、市長に意見を言う会というものを実施して

おり、その意見のテーマが杉崎公園をもっと良くするというテーマだった。非常に良いご提案がたくさんあり、学年全体や保護者も巻き込んで要望を作成し私のもとへ持って来てくれることになっている。その意見を事前に少し見させていただいたが、とても良い意見だった。多額のお金がかかる意見、お金がかからない意見がどちらもあり、どちらにせよ子どもたちの自信となるよう何とか意見は実現していきたいと考えている。子どもの意見を直接聞くということはしっかりやっていきたい。また、公園は保育園児や未就学児も含め子どもたち全体の場合もあるので、また幅広い保護者の皆様からご意見をいただきたく思う。

K委員のお話で、人手不足や職員不足の問題が挙げられたが、やはり大きな課題であると認識している。山之村は特に人数が限られている地域であり、どうしても神岡の街中や他の地域へ人手を求めなくてはいけないことがあるかと思う。自家用車で送迎をいただいている部分は、公共交通手段を使っただく方法も大いに考えられる。

診療所のお風呂の代わりに割石温泉を使うということは大いに考えられることで、割石温泉をこういった拠点として今後考えていくことも具体的に検討していきたい。

支え合いヘルパーについても、神岡の人手不足が特に顕著な問題で、これをやれば解決するという具体的な案はないものの、市でカバーできる部分は積極的に行っていくので現状についてご相談させていただきたく思う。平均 66 歳の方が介護をするという介護競合になるような側面もあると思うが、働き方の価値観は様々であり、週 1 回にわずかな時間でも働きたいという方も雇用してカバーしていくやり方が、持続可能という政策のテーマで重要なポイントにもなるので、これについても良く考えていきたい。

L委員のお話で、新型コロナの現状についてお話をいただいたが、現状の感染者数やモニタリングは医師会のサーベイランスシステムにより全数把握できている。感染力の強い XBB 株が流行しているということで、今まで通り高齢者の方々への対策の呼びかけは必要。医療関係施設はゼロコロナ体制を継続しており、必要な資材や、継続していく上での負担があると思うので、その支援についてはまたご相談させていただきたい。

電気代など物価高騰対策ということで支援を実施しているが、現状は支援の手を自治体へ任せきりにしているという状況で、本当は国がもっとしっかりと支援すべきだと思っている。確かに国では、診療報酬の改定という 3 つ同時の改訂が控えているのでそれについて議論されているということは分かるが、目の前で負担が出ていくところを見殺しにしている状況には間違いない。国にしっかりとしてほしいと思うが、そのようなことを言っても仕方がないので、とにかく市の財源の中でできる範囲で支援している状況。下半期にまた皆様から状況を聞きとりながら、支援の内容

を検討していきたい。

市税の話もあったが、飛騨市は景気によって市税が左右されない特徴があり、景気が良くなっても税収は上がらないが景気が悪くなっても税収は下がらない。輸出志向の製造業やサービス業のウエイトが多いので、給与が極端に下がっている状況はなく、実はコロナ禍にあっても、市民一人当たりの収入金額は増えている。

固定資産税が約1億増加しているのは、土地の値段が下がっている一方で新しい家が建っている点と、水力発電や小水力発電を積極的に誘致したことが要因。飛騨市は人が少ないので企業誘致が難しい問題があるが、水力発電なら人の数によらないので、ここが税収を増やす要素だと感じている。引き続き様々なところに声をかけていきたい。

市職員の業務量は確かに増えていて事務改善だけでは根本的な解決は難しいことから、アウトソーシングで外へと外注することが必要。市民の皆様からの要望も増えてきており、それに可能な限り応えていこうと思うとどうしても余裕を見つけ出さなければならないため、できる仕事は内部でやり、外に出せる仕事は出していく方法が良いと考える。

藤井聡太棋士を呼んでは、という話はたまにあるが、これについては少し考えたい。市長選挙については、なかなか今は考える余裕がないため直前に考えることになると思うが、まだ任期は十分あるので残りの任期を全力投球で務めたい。

M委員のお話でミズベリングの話があったが、今の子どもたちは小中高どの学年の子もすごい。驚くほどに色々なことを考えており、提案も現実的で非常に頼もしい。先日山之村小中学校に行き生徒の意見を聞いたところ、地域のこういうものをこうしたらどうか、という意見を持っていてすごいと思ったと同時に、今の飛騨市学園構想はこういったことを進めていく中核の取組であり、もっと大いに推進していきたいと感じた。

プレミアム商品券の要望があったが、人口も減っており中小商店、小規模商店の経営が厳しいことは十分承知している。ただ、プレミアム商品券というものはあくまで一過性であり、悪いことではないが多くの場合、プレミアム商品券はスーパーで日用品を買ったり酒店で使ったりと全体に行き渡らない使い方になってしまうことが危惧される。それもあり、コロナの時に実施した大売出しは短期集中的に3日間だけ実施し、少しでも全体に行き渡るような仕組みとした。加えて1つ懸念されることが、昨年アンケートの中でも見られたもので、「当然やってくれるでしょ？」のような意見があり、このような考えになった時に商店がダメになると私は思っており、これはよくないと思った。この時代の中でどのように生き抜いていくか工夫をする意識を失ったら本当にそれこそ終わりだと思うため、その考えに陥らないようにする必要がある。先日、商工会の協議会で事例集を見せていただいたが、随分工夫されているところがあって、商工会が随分と寄り添って頂いている事例を拝見した。やはり、こういう努力が必要だろうと思うので、我々がやるべきはこうした

時代の中で経営を続けていくための支援を伴走で応援していくことではないだろうか。今後状況が変わることもあるかと思うが、現時点でプレミアム商品券を必ずしも急いでやる状況ではないと判断している。

N委員のお話で、区長会連絡協議会の在り方の話があったが、見直しは確かに必要かもしれない。またよくお話を聞かせていただき対応を求めたい。

小畑産業の工場は今まで認識がなかったため、これもまたご相談させていただきたい。特定空き家にはならないと思うが、現状を確認する。

O委員のお話だが、LINE はどなたでも登録できるので、できるだけ若い人にも市の公式アカウントを友達登録していただくよう引き続き啓発・周知・PRをしていきたい。参考までに、最近市民の方から、区の回覧は全て紙だがLINE の配信はできないかというお話を伺ったことがあり、区が運営するLINE グループで情報共有する形も場合によってはあると思う。例えば、昨日古川町で草刈りがあったが、一昨日雨が降ったことでいくつかの区では延期となった。区によっては延期を知らせる時の連絡網が確立されていないところがあるようで、それぞれ区の事情はあるだろうが、区のLINE グループを作成するという 것도検討できるかと思うため、経費がかかってくる等ある場合は市でも考えさせていただきたいと参考までに申し上げる。

【沖畑教育長】

D委員のお話で、出席簿が男女別になっていることについて私も混合で良いと思う。何となくそのままにできているが、ジェンダーの意識を変えるにはこういった取り組みが重要であるため、もう一度学校の方に投げかける。

ジェンダーフリーの件で、今は女子でも制服はパンツスタイルの子がおり、全く問題なく学校生活を送っている。その中で、今は一応男女の制服が見た目で分かっているが、その部分を問題に感じていないかということを、中学校に投げかけている。中学校としては、学校や大人が考えるのではなく、子どもたちがそういったことに問題意識を持って考えていく中で、一緒に大人が取り組むような少し気の長いことを考えている。

E委員のお話で、地域クラブについては先般説明したような進捗状況となっており、予定としては秋頃に保護者説明会を実施したいと考えている。

ランドセルや通学カバンについては、学校に教科書を置いておくことは全ての学校で許可されていて、多くの児童が昔で言う「置き勉」をしている。通学カバンはランドセルでなくてはいけないというように決められているわけではなく、自由にさせていただいて構わない。教科書が重いということで、デジタル教科書については、次の教科書改訂にはデジタル教科書を視野に入れていくか見極めるため、文部科学省が特定の教科を希望する学校にて実証実験を行っている。小学校5年生以上の全ての学年では英語のデジタル教科書を導入していて、発音もその場で聞けるということで非常に使いやすいと聞いている。算数・数学のデジタル教科書については5年生以上の抽出校のみとなっているが試験導入されている。いずれも使用後にアン

ケートを実施し今後どうしていくかが決定されていく。

G委員のお話で、災害発生時にお子さんの引き渡しができなかったらという点について、特に2、3日と長くなり、宿泊も伴う場合はご心配だと思う。その場合でも、市・教員・避難所と連携しながら、親御さんのお迎えが来るまできちんと責任を持ってお子さんをお預かりするので、そのように理解していただければ。もっと期間が長くなってしまった場合については、再度危機管理行動を確認させていただく。

I委員のお話で、防災教育の話が出たが、ご協力いただき感謝申し上げます。おかげさまで軌道に乗っていくことができ、今年は神岡でも開催ということで子どもたちも積極的に参加するので、ご協力をお願い申し上げます。

M委員からミズベリング等子どもたちと地域が一緒になった活動をこれからも継続してほしいという意見があったが、飛騨市学園構想から動き出し、勢いがついて今は着々と発展してきているところ。子どもたちと地域の連携も含め、行政各部署、企業、民間団体の皆さんと一緒に考えていきたい。子どもたちが将来社会で生きていくために大事な力となるため、この活動は継続して行っていくことを考えている。

H委員のお話で、卒業した後にそれっきり帰ってこないということも挙げられたが、今は少し変わってきていて、子どもたちが企業見学や地域の様々なことを体験するというふるさと学習に、これまでふるさと学習をしてきた中学生が参画するという学び方へと変わってきている。この学びの変化により、子どもたちと地域がより結びつき、当事者として考える力をつけることにもつながってきているため、多少は将来の姿に変化があるのではないかと期待して事業を行っている。

O委員のお話で、中高生も市のアカウントを友達登録し、市の情報を得ることを日常的にやってほしいということだったが、非常にいいことだと思う。中学生は学校にスマートフォンを持って来てきてはいけないため学校では出来ないが、学校のタブレットを使いながら情報を得て、そこから学びを展開していくようなことを繰り返しながら、こうした学びを日常的に得る方法ということで、情報提供していきたい。

【会長】

非常にたくさんの意見をいただき感謝申し上げます。私からもいくつか気になった点をお話しする。

引き渡し訓練のお話があったが、基本的には保護者の方が安全確保できるまで、お子さんをしっかり預かり待機するのでご安心いただきたい。防災について、飛騨市が作成した防災ハンドブックを使えば防災士の方も講習会をしやすくなるため、ぜひご活用いただきたい。ちなみに、私は防災ハンドブックの最後のページにある減災力をチェックするシートを作成した。災害について自分ごととして考えていただくためにも使っていただきたい。

お話を聞く中で非常にいいなと思ったことは、子どもたちの活躍が色々なところで

目に見えてきていること。特に防災の分野で子どもたちが地域の中で活躍しているところが見える。飛騨市の飛騨市学園構想の教育ビジョンとして、学校と地域が連携し、地域の中で子どもたちが活動できる土壌ができている部分が非常に手厚く素晴らしいと思う。県の教育ビジョンも飛騨市のようにしてほしいと思うほど。

私は飛騨高山大学の理事をしており、現在交渉している 2026 年 4 月開校に向けて全力で準備をしているところで、中身もだいたい作ってきている状況。あと 2 年半ほどあるが、今日のお話を受けて卒業の部分などご期待に応えられるようにやっていきたいと考えている。現状でも、大学生の夏休みに来てもらえるような地域でできるプログラムなどがあるといいと思うので、協力できる部分は協力したい。

その他、ご意見等あるか。

【K 委員】 障がいを持ってみえる方もお年寄りの方も一緒にサービスを受けられる共生介護がある。基準緩和サービスでも、市営型のような飛騨市独自の基準緩和で共生ができるようなサービスを作っていただけるとありがたい。

【都竹市長】 非常にいいお話で、共生型も含めて色々なことを複合していくことが大きな流れとなっている。飛騨市のように小さい町は、制度の枠や壁を越えて色々なものを共通に使っていくということが必要になってくるので、早速検討させていただきたいと思う。かつて富山型デイサービスと言われたように、全国のモデルになるような形態もあり、そういった地方の中で自らの実情に合わせたやり方が今後のモデルになることもあると思うので、積極的に取り組んでいきたい。また色々なご意見やアドバイスをいただきたく思う。

【会長】 他にご意見はあるか。

【森田部長】 O 委員のお話にあった飛騨市 LINE の登録者数について補足する。最新ではないが昨年度末時点で 4,418 人。LINE の他にほっと知るメールというメールの登録も促しているものの、年間の登録者増加としては LINE が 559 人、ほっと知るメールが 32 人と LINE の方が多く親和性を感じている。これからももう少し PR をしていきたいと考えているのでよろしくお願い申し上げます。

【会長】 情報を知るということは非常に大切なので、色々な人に情報が行き渡る方法がよいと思う。ぜひ委員の皆さんも、周りの子どもたちも含めて実際に登録いただきたい。それでは、協議事項は以上となる。司会を事務局にお返しする。

8. その他

今後のスケジュールについて説明

9. 閉会【湯之下副市長】

本日も委員の皆様には、長時間にわたって、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

普段職員として仕事をしている中では気づかないことを、今日のように皆様方から色々なご意見を頂

戴することで気づくことができ、自分の担当のこと以外で連携するヒントになることが見つかるため、非常に有り難い機会である。次回委員の皆様方に集まっていた際にも貴重な意見をいただきたい。

それでは本日の会議を終了する。